

国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの
メッセージ



クレアで得た大きな財産を糧に

「中国」と「中国人」は別

私がクレア北京事務所へ派遣されたのは、平成 25 年 4 月からの 2 年間です。着任当時、日本の報道では、尖閣諸島の領有権をめぐる日中関係の悪化や、深刻な大気汚染が連日取り上げられていました。周囲の人に「本当に中国へ行くの？」としきりに心配されたことを覚えています。

不安を抱きつつ足を踏み入れた中国でしたが、そこで出会ったのは、義理人情に厚く、あたたかい人々でした。夜行列車で身の上話を聞かせてくれたおじいさん、旅先で一緒にバスを探してくれた女の子、私が「日本人」とわかった後もその優しさは変わりませんでした。自分の目で見て、肌で感じ、中国に対する印象はがらりと変わりました。運転マナーの悪さや、不便なネット環境など、中国生活の中でうんざりする思いをしたことは少なくありません。しかし、「中国」と「中国人」は別なもの。中国の大地は驚くほど広大で、十三億もの多様な中国人が暮らしています。「中国は」「中国人は」と一括りにとらえられるものでないということに気づかされました。

地道な活動を重ねた東北観光 PR

クレア北京事務所では、東北地方の自治体の皆さんと一緒に、旅行博への出展など、観光 PR を行う機会を多くいただきました。最初のころは「東北は知名度がないから売れない」「放射能が怖いから行きたくない」と言われて落ち込むこともありましたが、自分たちから動かなければ、状況は何も変わりません。東日本大震災や原発事故を言い訳にはいけないという思いもありました。スキーや紅葉といった東北ならではの魅力にスポットを当てたプロモーション活動を行ったり、SNS を通じた情報発信を行ったりと、地道な活動を重ねました。

仙台市文化観光局交流部誘客戦略推進課 岩田 朝子

現在では、中国から観光客を誘致するインバウンドの仕事を担当しています。東北のインバウンド市場は、他地域と比べると大きく出遅れており、課題は山積みです。一方で、北海道新幹線の開業や仙台空港の民営化を追い風に、仙台や東北のツアー商品を販売する中国の旅行会社が少しずつ増えてきました。

クレアの経験が財産に

中国の人々との顔の見える交流を通じて得た気づきや、インバウンドの現場での経験、人脈など、クレア勤務を通じて得たものは多く、私にとって大きな財産となりました。そうした財産を大切にしながら、今後の業務推進の糧にしたいと思っています。



吉林省長春市での観光プロモーション

プロフィール

- 仙台市での略歴
平成 17 年仙台市役所入庁。生活保護ケースワーカー、広報誌編集、姉妹都市・友好都市交流、国際会議準備業務などに従事。平成 28 年 6 月より現職。
- CLAIR 時代の所属
平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月
東京本部総務部企画調査課 主事
平成 25 年 4 月～平成 27 年 3 月
北京事務所 所長補佐